

# 明日へ向かって

V奪還を狙う！  
1(ワン)ダホーな2017シーズンが  
幕を開ける

背番号「3」で新たな1年がスタート！  
「世界一」と「日本一」  
2人の監督を  
胴上げする！



福岡ソフトバンクホークス 内野手

## 松田 宣浩 選手

1983年5月17日生。滋賀県草津市出身。岐阜・中京高、亜細亜大。2005年大学生・社会人ドラフト希望枠にて福岡ソフトバンクホークス入団。三塁手、右投右打。元気で明るいムードメーカーとして、ベンチでは誰よりも大きな声を出して盛り上げる。今季からはWBCと同じく、背番号「3」をつける。2016年は143試合フル出場、打率2割5分9厘、85打点、27本塁打、85打点をマーク。



本塁打を放つ長打力や守備力、強肩が持ち味の松田選手



4年連続5回目の「ゴールデングラブ賞」に輝き、2年連続フル出場を果たす。

## 覚悟を持って戦いに挑む侍魂。“熱男”は今年も戦い続ける！

迫力のあるホームランを放ち、ホームイン。ベンチでナインにハイタッチで迎え入れられた後は、恒例の「熱男(アツオ)〜!」と絶叫。ファンと、球場とが一体になる瞬間だ。福岡ソフトバンクホークスのムードメーカー・松田宣浩選手の明るいパフォーマンスが球場を盛り上げる。

2016年は4年連続5回目のゴールデングラブ賞受賞、全143試合フル出場と、輝かしい軌跡とともに、日本一奪還という課題が残るシーズンとなった。2017年、松田選手の視線の先にあるのは「世界一」と「日本一」だ。3月にはWBC(ワールドベースボールクラシック)も開催される。小久保裕紀監督率いる侍ジャパンに選ばれており、「WBCで小久保監督を、ホークスで工藤監督を。2人の監督を胴上げて男にしたい」と抱負を語る。

今季は希望した背番号「3」を手に入れた。同じ三塁を守っていた、憧れの読売ジャイアンツ長嶋茂雄終身名誉監督がつけていた、待望の「3」。キャリアハイを目指すためにも一つのターニングポイントになりそうだ。背番号が変わっただけで、チームは変わっていないのにこんなに違うものかと、素直に喜びを語る。プロ12年目を迎えた今季も、自分の居場所だと思っている三塁手のポジションは誰にも渡すつもりはない。

勝つためにできることは、試合に出続けることだと言い切る。野球は自分1人ではできない。だから痛くても、きつくても試合に出続けること。もちろん、体調管理にも万全を期す。「ただ元気なだけではなく、結果や数字が常に求められるスポーツ。そういう難しさも含めて、試合に出続けることが1番大事」。その言葉通り、2016年同様、2017年も143試合フル出場を目指す。

シーズン中は、毎日同じルーティンをこなすことを信条としている。ウォーミングアップ、ウエイトトレーニング、バッティング練習など…、調子が良くても、悪くても、同じメニュー

ーを毎日、積み重ねていく。

それは、剣道や柔道、書道など、「道」にも通じる。道とは、人間を意味する「首」という字、足の象形から行きつ戻りつしながら進むことを表す「しんしょう」からなる。つまり人が何度も同じことを反復する、その積み重ねによって得るものだ。松田選手の取り組みも、まさに「道」のようだ。チームを明るく導くムードメーカーの顔の裏に、ストイックなまでに毎日同じことを繰り返す「道」が垣間見えた。

「勝ち続けること。一度くらい負けてもいいとは、断固として思わない」。“勝ち”には、並々ならぬ思いがある。チームを勝利に導くために、自分が先頭に立つことを心がけている。ベンチに松田選手の大きな声が響き渡ることも珍しくない。「勝利は選手だけでは成り立たない。監督やコーチ、トレーナーなど、チームとしてやり遂げたい」と語る。

最後に若者へ向けて「何をやるにしても信条を貫き、やり続けてほしい。それが原動力となって、夢をつかむための強い力になる」という熱い言葉を贈った。熾烈な優勝争いが繰り広げられた2016年のシーズン。V奪還を目指す“熱男”松田選手の戦いは続く。



2015・2016年のスローガンだった「熱男」。「僕にとっても最高のスローガンとなった」と語る。今季のスローガンは「1(ワン)ダホー!」。V奪還に向けて、どんな侍魂を見せてくれるのか。